

絵画特論Ⅱ

講師 石村 実

1985年3月 愛知県立芸術大学大学院修了(絵画研究科)

<展覧会など>

1984年 空間・遊・名古屋市博物館

1985年 未来の予感・韓国現代美術交流展・韓国

PINUP OF THE FUTURE 東京都美術館 (現代アーティストセンター)

1996年 眼の座標・代々木アートギャラリー(断続的に～2003年)

2000年 反解釈・東京都美術館 (現代アーティストセンター)

2002年 南へ、東へ・東京都美術館 (現代アーティストセンター)

他、真木田村画廊、ルナミ画廊、ギャラリー檜など個展、グループ展多数。

<評論・講演など>

2010年 檜講話 (ギャラリー檜にて講演会)

2011年 愛知県立芸術大学非常勤講師 講演

2014年 評論「透視する眼差し」(宮下圭介展 沼津市庄司美術館)

他、展覧会パンフレット掲載の評論等。

<受賞歴など>

愛知県立芸術大学卒業制作買い上げ賞、第11回名古屋文化振興賞・評論部門受賞、美術出版社・第14回芸術評論佳作賞など。

<その他>

以上のように、愛知県立芸術大学・大学院修了後、神奈川県にて高校の美術教育に携わりながら、絵画作品の制作と発表、美術評論の活動を継続的に行ってきた。いずれも現代美術の分野において、在野の立場から研究活動を続けている。

また、10年ほど前から、東京都美術館を拠点とした現代美術作家による組織「現代アーティストセンター」の運営委員として、「現代アーティストセンター展」の企画・運営に携わっている。「現代アーティストセンター展」は、年に一回、東京都美術館にて新たな企画展を計画し、実施している。

(その活動の詳細は、<http://www5b.biglobe.ne.jp/~a-center/> で確認できる。)

その他、日常的な研究発表として、ブログ「平らな深み、緩やかな時間」を不定期に執筆している。

(<http://blog.ap.teacup.com/tairanahukami/>)

営利目的のジャーナリズムや公的な刊行物では取り上げられない展覧会や美術活動を積極的に取り上げること、また、一般的な美術展覧会や出版物においては、率直な論評を加えることなどを目的として運営している。専門的な内容を、論理的な水準を落とさずに、いかにわかりやすく読者に伝えることができるのかが、継続的な課題である。

<講義の予定>

- ・9月13日 「第二次世界大戦後の現代絵画の流れ」
「ポロックとグリーンバーグ」
- ・9月14日 「ポロックとグリーンバーグ」(続き)
「グリーンバーグ以降の絵画」

<講義の目標・ねらい>

- ・第二次世界大戦後の現代絵画の大まかな流れを理解する
- ・20世紀最大の美術評論家とも言われるグリーンバーグのテキストを読む
- ・ポロックとグリーンバーグの関係を通して、作品と批評のあり方について考察する
- ・グリーンバーグの理論をふまえて、現在の絵画について考察する

<配布テキスト資料>

- ・「モダニズムの絵画」
『グリーンバーグ批評選集』より クレメント グリーンバーグ (著), 藤枝 晃雄 (訳)
- ・「グリーンバーグのポロック論集成」
『ユリイカ 1993年2月号』より クレメント グリーンバーグ (著), 川田 都樹子 (編著/訳)
- ・「ポスト・ペインタリー・アブストラクション」
『武蔵野美術 No.110』より クレメント グリーンバーグ (著), 川田 都樹子 (訳)

<巻末資料>

- ・「戦中から戦後へ」～
『西洋美術史』より 高階秀爾 (監修/美術出版社版)
- ・「グリーンバーグ」 尾崎信一郎 (執筆)
『20世紀の美術と思想』より 谷川渥 (監修)
- ・「マイケル・フリード」 尾崎信一郎 (執筆)
『20世紀の美術と思想』より 谷川渥 (監修)
- ・「ロザリンド・クラウス」 小西 信之 (執筆)
『20世紀の美術と思想』より 谷川渥 (監修)

1. 第二次世界大戦後の現代美術、現代絵画の流れ

第二次世界大戦後の現代絵画の流れについて、美術史資料から大雑把につかむ。

<講義資料参照>

「戦中から戦後へ」～

(図版の中で、皆さんの知っている作品は何点ぐらいありますか?)

<アンフォルメル的事例>

○スライド資料1

『ジャン・フォートリエ展』2014年(東京、名古屋、大阪)

「戦後のフランス絵画を切り拓いた男 日本初の回顧展

ジャン・フォートリエ(1898-1964)は20世紀フランスを代表する画家の一人です。第二次世界大戦の戦時下に描かれた「人質」連作の激しく歪んだ半ば抽象的な人物像は人類の暴力を告発する20世紀絵画の証言者として位置づけられています。そこでの絵具の素材感もあらわな独自の表現方法は、絵画の役割を外界の描写から解放し、画家の行為の場へと、そして絵具という物質とイメージとが混交し詩情を醸し出す場へと転じました。この転換は同時代の抽象絵画の運動とも呼応し、フォートリエはヨーロッパにおける「アンフォルメル」の先駆けと評されることになります。そうしたフォートリエの作品は、1959年の作家の来日をハイライトに20世紀後半の本邦の美術界にも多大な影響を与えました。

本展は、日本でははじめてとなる画家没後の回顧展として、彫刻や版画なども含めた約90点でフォートリエの魅力之余すことなく紹介するものです。20世紀美術に偉大な足跡を残した画家の全体像をとおして、時代の証言に耳を傾けていただけますと幸いです。」

●ポイント

- ・抽象表現主義の流れ 「アンフォルメル」と「アクション・ペインティング」とは?
- ・アメリカ美術の隆盛の理由は?
- ・「ネオダダ」、「ポップアート」以降の流れは?

2. 「モダニズムの絵画」が示す、現代絵画の平面性について

グリーンバーグ「モダニズムの絵画」が示す、現代絵画の平面性とは、どういうことか、考察する。

<テキスト資料参照>

「モダニズムの絵画」 前半部分参照

<絵画の平面性の事例>

ピエト・モンドリアン(Piet Mondrian, 1872 - 1944)

オランダ出身の画家。ワシリー・カンディンスキーと並び、本格的な抽象絵画を描いた最初期の画家とされる。

- スライド資料2 ダイフェンドレフト 1905
- スライド資料3 樹Ⅱ 1912
- スライド資料4 灰色の樹 1912

○スライド資料5	花盛りのりんごの樹	1912
○スライド資料6	コンポジション第3番(樹)	1913
○スライド資料7	コンポジション第6番	1914
○スライド資料8	赤と黄と青のあるコンポジション	1921

アンリ・マティス (Henri Matisse, 1869 - 1954)

フランスの画家。フォーヴィスム(野獣派)のリーダー的存在であり、野獣派の活動が短期間で終わった後も20世紀を代表する芸術家の一人として活動を続けた。「色彩の魔術師」と謳われた画家であった。

○スライド資料9	シルクハットのある室内	1896 (27歳)
○スライド資料10	逆光のなかの静物	1899
○スライド資料11	赤い絨毯のある静物	1906
○スライド資料12	青い窓	1913
○スライド資料13	コリウールのフランス窓	1914
○スライド資料14	石膏像のある静物	1924
○スライド資料15	ジャズ・シリーズ「櫛」	1947

パブロ・ピカソ (Pablo Picasso, 1881 - 1973)

スペインのマラガに生まれ、フランスで制作活動をした画家、素描家、彫刻家。ジョルジュ・ブラックとともに、キュビズムの創始者として知られる。

○スライド資料16	ラ・コルーニャの村娘	1895 (14歳)
○スライド資料17	青い肩掛けの女	1902
○スライド資料18	ガートルード・スタインの肖像	1905-06
○スライド資料19	女の顔	1909
○スライド資料20	マンドリンをもつ女	1911
○スライド資料21	ポルトガル人	1911 (ジョルジュ・ブラック)
○スライド資料22	オルガ・コクローヴァの肖像	1917
○スライド資料23	子供たちの食事	1953

イマヌエル・カント (Immanuel Kant, 1724 - 1804)

ドイツの哲学者、思想家。プロイセン王国出身の大学教授である。『純粋理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』の三批判書を発表し、批判哲学を提唱して、認識論における、いわゆる「コペルニクスの転回」をもたらす。フィヒテ、シェリング、そしてヘーゲルへと続くドイツ古典主義哲学(ドイツ観念論哲学)の祖とされる。近代に最も影響を与えた人物の一人。

カントの批判哲学

従来、人間外部の事象、物体について分析を加えるものであった哲学を人間それ自身の探求のために再定義した「コペルニクスの転回」は有名。彼は、人間のもつ純粋理性、実践理性、判断力とくに反省的判断力の性質とその限界を考察し、『純粋理性批判』以下の三冊の批判書にまとめた。「我々は何を知りうるか」、「我々は何をなしうるか」、「我々は何を欲しうるか」という人間学の根本的な問いがそれぞれ『純粋理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』に対応している。カントの批判とは否定ではなく吟味をさす。

(「Wikipedia」より抜粋)

●ポイント

- ・グリーンバーグの示す、絵画の平面性について、把握できましたか？
- ・グリーンバーグはどのようにして、モダニズムの絵画が平面性と向かったと考えたのでしょうか？
- ・自分だったら、モダニズムの絵画の平面性について、どう説明しますか？

3. ジャクソン・ポロックとクレメント・グリーンバーグ

<講義資料参照>

「グリーンバーグ」

<補足資料>

・ジャクソン・ポロック (Jackson Pollock, 1912 - 1956)

20世紀のアメリカの画家。抽象表現主義（ニューヨーク派）の代表的な画家。彼の画法はアクション・ペインティングとも呼ばれた。第二次世界大戦中に戦禍を避けてアメリカに避難していたシュルレアリストらの影響により、しだいに無意識的なイメージを重視するスタイルになった。1943年頃から、キャンバスを床に広げ、刷毛やコテで空中から塗料を滴らせる「ドリッピング」や、線を描く「ポーリング」という技法を使い始める。このころ、批評家のクレメント・グリーンバーグが賛辞を贈る一方、雑誌や新聞によってからかい半分の取り上げられ方をしている。床に置いて描くことはインディアンの砂絵の影響などによると言われる。「地」と「図」が均質となったその絵画は「オール・オーバー」と呼ばれ、他の抽象表現主義の画家たちとも共通している。批評家のハロルド・ローゼンバーグは、絵画は作品というより描画行為の軌跡になっていると評し、デ・クーニングらとともに「アクション・ペインティング」の代表的な画家であるとした。アルコール依存症の再発などの理由で、1951年ごろから混迷期に入った。黒いエナメル一色の作品を描いたり、具象的な絵を描いたり、色彩豊かな抽象に戻るなどの模索を繰り返した。そして1956年8月11日、若い愛人とその友人を巻き添えに自動車事故を起こし、44歳で死亡した。

(「Wikipedia」より抜粋)

●ポイント

- ・グリーンバーグの「フォーマリズム」批評とは、どんな批評でしょうか？
- ・「フォーマリズム批評」以外に、美術について考察するには、どんな方法がありますか？

<例>

図像学

絵画・彫刻等の美術表現の表す意味やその由来などについての研究。イコノグラフィー。

美術史(学)

絵画・建築・彫刻・工芸品など造型芸術の歴史を研究する学問。

美学

美学とは美、芸術または趣味に関する哲学の一領域である。伝統的に美学は美とは何かという美の本質、どのようなものが美しいのかという美の基準、美は何のためにあるのかという美の価値を問題として取り組んできた。

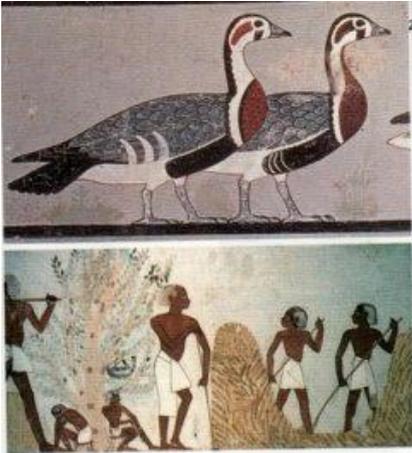
- ・あなたは、どんなふうに絵について語りますか？
- ・今までに、美術について、どんなタイプの本を読んだことがありますか？

<例 題>

今日の最後に、次の問いを考えてみてください。

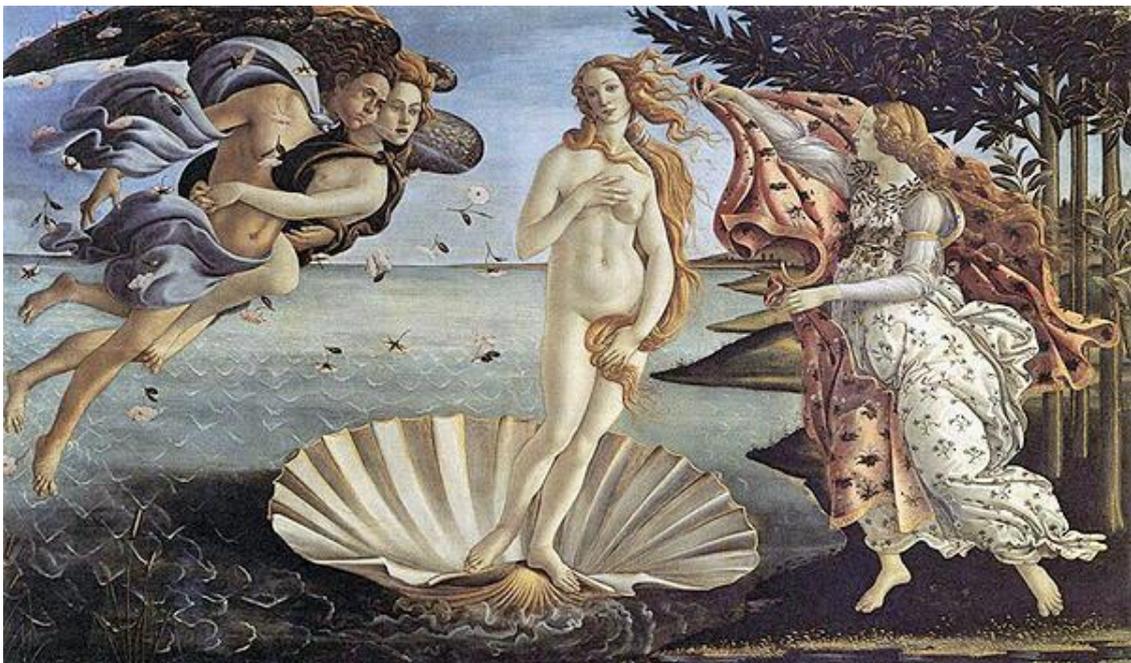
①下の3枚の絵の違いを、どう説明しますか？

- スライド資料 23-1 エジプト メンナの墓 第18王朝 BC1350頃 (左)
- スライド資料 23-2 ジオット ユダの接吻 1305 (中)
- スライド資料 23-3 ラファエルロ アテナイの学堂 1509-10 (右)



②下の絵の解説は、どんな見方から絵を語っているのでしょうか。

- スライド資料 23-4 ボッティチェリ ヴィーナスの誕生 1483



ボッティチェリは、ルネサンス期のイタリア人の画家です。

海から現れるというヴィーナスの物語は、美の神聖なシンボルです。バラの花に囲まれている風の神ゼフュロスとクロリスが、岸辺へと運んでいるところです。右端は果樹園のある岸辺です。ギリシャの理想郷ヘスペリデス、黄金のリンゴの園です。

彼の描くヴィーナスは、首が長かったり、肩が極端に落ちていたり、左腕が不自然だったり、マザッチョが到達した正確さに欠けています。ボッティチェリが大切にしていたのは、写実的な、科学的な正確さではなく、どこまでも優美で繊細な愛の女神です。(「ヴァーチャル絵画」のサイトより一部引用)

4. 「ポロック論集成」とポロックの作品の変遷

<テキスト資料参照>

「ポロック論集成」参照

<ポロックの作品の変遷>

○スライド資料 24	Going west	1934-38
○スライド資料 25	Nakid Man with Knife	1938-41
○スライド資料 26	Bird	1941
○スライド資料 27	秘密の守護者女の顔	1943
○スライド資料 28	男と女	1942
○スライド資料 29	傷ついた獣	1943
○スライド資料 30	トーテム・レッスン1	1944
○スライド資料 31	トーテム・レッスン2	1945
○スライド資料 32	(ナバホ族の砂絵) (ジャクソン・ポロックの制作写真) (ジャクソン・ポロックの制作写真) (ジャクソン・ポロックの制作写真) ゴシック	1944
○スライド資料 33	伽藍	1947
○スライド資料 34	海はすべてを変える	1947
○スライド資料 35	五尋の海の底	1947
○スライド資料 36	ナンバー1 A	1948
○スライド資料 37	蜘蛛の巣を逃れて	1949
○スライド資料 38	ラベンダーの霧 ナンバー1	1950
○スライド資料 39	ワン ナンバー31	1950
○スライド資料 40	秋のリズム ナンバー30	1950
○スライド資料 41	ナンバー28	1951
○スライド資料 42	ナンバー10	1952
○スライド資料 43	ブルー・ポールズ ナンバー11	1952
○スライド資料 44	Ocean Greyness	1953
○スライド資料 45	深み	1953

●ポイント

- ・ポロックの作品の変遷を把握できましたか？
 - ・グリーンバーグのポロックへの評価をどのように考えますか？
 - ・ポロックとグリーンバーグの関係、制作と言葉との関係をどう考えますか？
- 関連して・・・
- ・先生や友達からの批評や助言を、あなたはどうか受け止めていますか？
 - ・友人の作品を批評するときに、何か気を付けていることがありますか？

5. 「モダニズムの絵画」以降のグリーンバーク

<テキスト資料参照>

「ポスト・ペインタリー・アブストラクション」参照

<関連の作品>

- スライド資料 46 ハンス・ホフマン 理想郷 1960
- スライド資料 47 バーネット・ニューマン 名前II 1950
- スライド資料 48 マーク・ロスコ 赤紫色の上の暗黄褐色、その上の黒色 1960
- スライド資料 49 ロバート・マザウェル スペイン共和国への哀歌 1961
- スライド資料 50 サム・フランシス サーキュラー・ブルー1953
- スライド資料 51 ヘレン・フランケンサラー 洞窟の前 1958
- スライド資料 52 モーリス・ルイス Beth Samarch 1958
- スライド資料 53 ジャスパー・ジョーンズ Three Frags 1958
- スライド資料 54 ウィレム・デ・クーニング 女 1950-52
- スライド資料 55 フランク・ステラ Tuxedo Junction 1960

●ポイント

- ・「ペインタリー」な絵画とは、どんな絵画でしょうか？
- ・グリーンバークは、ポップアートについて、どう考えていたのでしょうか？
- ・グリーンバークは、これからの絵画をどうあるべきだと考えていたのでしょうか？

6. グリーンバーク以降の絵画

<講義資料参照>

「マイケル・フリード」参照

<関連の作品>

- スライド資料 62 アンソニー・カロ スパン 1966
- スライド資料 63 アンソニー・カロ テーブル作品第22番 1967

<講義資料参照>

「ロザリンド・クラウス」参照

<関連の作品>

- スライド資料 64 デヴィッド・スミス Cubi IXX 1964
- スライド資料 65 リチャード・セラ House of Cards 1969

本書『アンフォルム』の萌芽は1980年代初頭に遡る。この頃著者たちの目に明らかになってきたのは、ある種の芸術の実践—1920年代末・1930年代初頭のアルベルト・ジャコメッティの彫刻や、一連のシュルレアリスム写真—の特徴を適切に記述するにはジョルジュ・バタイユの「アンフォルムなもの」諸操作を用いる以外にないということだった。この時まで、バタイユの名がこうした諸実践に結び付けられたことはなかったのだが、それ以降、「アンフォルムなもの」のもつ操作的で行為遂行的な「力」は、上記以外の諸実践を理解するうえでも必要なものであることがわかった。たとえば、ルーチョ・フォンタナの作品の中の、重大な意義を持っているが無視されてきた部分のこと、あるいは1960年代におけるジャクソン・ポロックの受容のことである。ポロックの受容は、アンディ・ウォホルの《ダンス・ダイアグラム》シリーズ、サイ・トゥオンブリの落書き、ロバート・モリスのフェルト作品、エド・ルーシェイの《液体語》シリーズなど、様々な形をとったが、そのいずれに関しても「アンフォルムなもの」の「力」が重要だったということがわかったのである。

(「はじめに」)

<関連の作品>

- スライド資料 66 トゥオンブリ 1960
- スライド資料 67 トゥオンブリ 1961
- スライド資料 67 トゥオンブリ 1970

<ミニマル・アートの立体の作品例>

- スライド資料 71 ドナルド・ジャッド 無題 1966

<グリーンバーク以降の絵画を考察する作品例>

ブライス・マーデン

- スライド資料 81 ブライス・マーデン Counturbatio 1978
- スライド資料 82 ブライス・マーデン Meritatio 1978
- スライド資料 83 ブライス・マーデン コールド・マウンテン (寒山) 1 1988-89
- スライド資料 84 ブライス・マーデン コールド・マウンテン (寒山) 6 1988-89
- スライド資料 85 ブライス・マーデン Epitaph Painting 1996-97

フランク・ステラ

- スライド資料 90 フランク・ステラ ヴァルパライソ 1963
- スライド資料 91 フランク・ステラ グールⅢ 1968
- スライド資料 92 フランク・ステラ レブロンⅡ 1975
- スライド資料 93 フランク・ステラ スラクストン3X 1982

●ポイント

- ・「ペインターリー」な絵画とは、どんな絵画でしょうか？
- ・グリーンバークは、ポップアートについて、どう考えていたのでしょうか？
- ・グリーンバークは、これからの絵画をどうあるべきだと考えていたのでしょうか？

7. まとめ

○モダニズムの絵画の平面性について、自分なりに考察してみましょう。

○この講義の問いに、正解はありません。

時間があれば、現在も悩みつつ、絵画の問題を追究している作家の事例について、お話しします。